

## 平成 29 年度 社会部 授業研究会 成果と課題

	月日・中単元名	授業研究のようす		成果	課題
3年	11/24 (金) 工場で働く人と仕事			地域のケーキ工場を教材化し、生産や携わる人々の工夫や努力、自分たちとの生活とのつながりを理解させる指導計画を開発した。 自分ならどの駅で販売するかを話し合うことを通して、工場で働く人びとの工夫や努力を深く学ぶことができた。	「考える段階」では、国内と他地域とのつながりを理解させるために、ターミナルがどのような場所であったのかを思い出させたり、商業施設や人の多さ、交通の便の良さを示す補助資料が必要であった。
4年	11/30 (木) 泉佐野市のタオルづくり			子どもの生活にも身近なタオルに着目し、泉佐野のタオルづくりに携わる人びとのようすを教材開発したことにより、子どもの学習意欲が高まり、主体的に追究することができた	子どもが主体的に考えるための自作資料について、内容を精選することができなかった。引き続き関連教材の充実を図り、深い学びに対応できるよう努める。
5年	11/6 (月) 工業の今と未来			日本の工業を支える中小工場として、生野区のサンダル工場の事例に差し替えた。企業の手厚い協力が得られ、多くの貴重な資料も提供していただくことができ、ねらいに沿った授業づくりをすることができた。 サンダル工場の学習を通して、日本の工業の特色や強みを理解でき、他のものづくりへ広げることができた。	疑問や好奇心を誘い、子どもが自然と発言するような資料を用いたり、発問を精選したりするなど、子どもどうしの対話を生み出すための手立てに工夫が必要である。
6年	10/25 (金) 近代国家に向けて -日清・日露の戦い-			・資料の精選・提示の工夫により児童の意欲が高まった。 「調べる段階」では資料を「下関条約」に精選し、日本が有利な条件で結べたことを児童が資料から調べ、リャオトン半島・台湾を日本にゆずるとはどういうことか、賠償金はいくらもらったのかなど、もっと詳しく知りたいと学びに対する意欲を高めていった。	・小単元の構成の検討  全 7 時間の中単元の中で、内容が多すぎるので、日清戦争で 1 時間扱うのではなく、日清・日露戦争が同時に比較できるような授業構成も考える余地がある。